

## 2 みんなの意見・感想

今回の調査におけるアンケートにご回答いただきありがとうございました。レポーターの皆様から様々なご意見やご感想をいただきました。

※皆様からお寄せいただいた意見・感想から抜粋し、漢字や文章の表現など意図を変えない範囲で修正を加えて掲載しています。

### <とり>

- ホトトギスやハルゼミ、オオタカなどの声を聴く回数が増えたように感じます。

ホトトギスやオオタカの鳴き声を聞く回数が増えたとのことで、羨ましいです。

ホトトギスはカッコウの仲間では代表的な夏鳥です。渡来してすぐの頃は高木や目立った場所で独特な鳴き声で縄張り（テリトリー）や繁殖行動のためにさえずります。夏場になると鳴き声は少なくなります。

オオタカは「ギギッ」と独特な鳴き声ですね。

最近は個体数も多くなり、人里近くでも見る機会が多くなりました。

- カワセミが増えたように感じます。

- 袋川にもカワセミが居てびっくりしました。

カワセミは調査報告にも記載しましたが、完全に都市鳥化して今ではどの河川でも見られます。しかしながら、その優美な姿は変わらずです。

- モズのはやにえをあまり見かけなくなりました。

モズのはやにえが少なくなっているのは本当の様です。こちらについてはカエルやバッタが少なくなっているといった食糧事情からではないでしょうか。

トゲのある樹木を注視して探してみてください。

- 水鳥をあまり見つけることができず、心配です。

水鳥の発見があまりできないとのことですが、水鳥を探するときのポイントとしては、川の流が速いところではなく、岸辺や流がよどんでいる場所、中洲の石の間などを探してみてください。近くに川がない場合は調整池や溜め池の周りの木々を含めて注意して見てください。

サギ類、カモ類（冬場）等は大きな鳥ですので、発見しやすいと思います。

セキレイ類や他の鳥も見られるかもしれません。もしカワセミが見られたら万々歳です。

- ヒバリが巣の子供を守るべく擬態に及んでいるのを発見しました。また、鳥類としては体に比べて長い脚であること、しかもバック歩行までするというのも新発見でした。

ヒバリの観察お見事です。

バック歩行まで発見できるとは、私はまだヒバリのバック歩行は見たことがありません。

今度は冠羽を立てた姿や飛び立つときの様子、さえずって地上に降りてくる様子なども見てください。また報告をお待ちしています。

- アオバズクの鳴き声が聞こえました。

- 調査を終える頃、例年ならばウグイスのさえずりも笹鳴きに戻る筈が、春さながらに「ホーホケキョ」と鳴いたのを聴き、正直我が耳を疑いました。モズがウグイスを真似たのではと再び耳を澄まして待っていたところ、また「ホーホケキョ」と数回鳴き数日後もまた鳴いていました。



アオバズク  
(レポーター提供)



ヒドリガモ  
(レポーター提供)

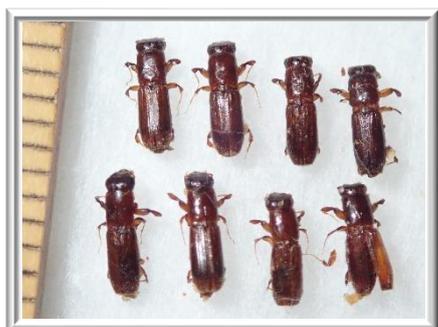
## <植物>

- 今年ことしの夏なつは暑あつく長ながかったので、うるしの花はなが遅おそく咲さいたように感じかんました。
- 今年ことしの記録きろくてき的な暑あつさで枯かれてしまった樹木じゅもくが結構けっこうあり痛いた々いたしかったです。
- 夏なつが過酷かこくな暑あつさになっているため、徒花あだばなを咲さかせた植物しょくぶつが多おほかったという印象いんしょうが強いつよです。

今年ことしの夏なつは高温こうおん少雨しょううの影響えいきょうで植物しょくぶつにとっても大変たいへんな夏なつだったようです。  
植物生理学しょくぶつせいりがくの様ような難むずかしい事ことはわかりませんが、今いままでの夏なつとは違ちがう環かん境きょうになったため、  
多分たぶん植物しょくぶつも戸惑とまどっていると思おもいます。  
これから先さき、今年ことしのような夏なつの気候きこうが続つづき、様々さまざまな生物せいぶつにとって大変たいへんな時代じだいにならない  
よう願ねがっています。

- ナラ枯れがが急きゅうそく速すに進すすんでいるように感じかんました。

本市ほんしの里山さとやまに自生じせいするブナ科植物かしょくぶつ（コナラ、クヌギ、フモトミズナラ）が周囲しゅういの緑みどりの  
中なかで茶色ちやいろに枯かれた状じょう況きょうを目めにすることがあります。  
ナラ枯れがの原因げんいんとしては、カシノナガキクイムシはこが運こび込むナラ菌きんの繁殖はんしょくにより、  
水みずの吸すい上げを阻そ害がいして枯死こしさせる伝染病でんせんびょうだそうです。  
このナラ枯れがを防止ぼうしする一つの方法ひとは、ブナ科の大木ほうほう（直徑か約たい30cm以上）を伐採ちよっけいやくし  
て萌芽更新いじょうをして若木ばっさい中心この森もりにすると被害ひがいは減げん少しょうするそうです（カシノナガキクイムシ  
は太ふとい木きに集あつまりやすい）。



カシノナガキクイムシ  
(大川検討委員提供)



ノカンゾウ  
(レポーター提供)

● 秋になっても自宅のヤマブキが咲き続け、10月にはハナズオウがちらほら、モクレンも一花咲いてしまい、どうしたものかと心配になりました。

● 山火事の爪痕もまだ残っているようで、焼け跡に咲くはずだった山野草が戻っていませんでした。

今年に限らず、春に咲く花も稀に秋～冬に咲くことがあります。今年の夏の高温と少雨の影響もあるかもしれません。

今まで、季節になると花を咲かせた植物が、急に見られなくなるのは淋しい事だと思います。しかし、もう少し様子を見てみましょう。復活するかもしれません。

● 始めてネナシカズラを見ました。色が綺麗で目立ちます。まさか植物とは思いませんでした。

ネナシカズラの仲間は全国に3種類あると知られていますが、いずれも宿主の植物に寄生する寄生植物です。

最初は普通の根を持ち、宿主の植物に寄生すると元の根は消え、宿主に寄生して養分を吸い取るそうです。

細いツルを四方八方に伸ばし、宿主を覆いつくすほど繁茂します。

● アシについては矢場川の県境(南大町と太田市高瀬の間)や渡良瀬川との合流(瑞穂野町)辺りに生育していることを認識していますが、正確な確認は来年に持ち越そうと思います。



ツマグロエダシャク  
(レポーター提供)



サトクダマキモドキ  
(レポーター提供)

＜昆虫＞

- 最近<sup>さいきん</sup>はカメムシ<sup>かめむし</sup>が多く<sup>おほ</sup>感じ<sup>かん</sup>ます。

年<sup>とし</sup>によって違<sup>ちが</sup>うかもしれ<sup>おほ</sup>ませんので、続<sup>つづ</sup>けて観<sup>かん</sup>察<sup>さつ</sup>してみ<sup>み</sup>てくだ<sup>くだ</sup>さると嬉<sup>うれ</sup>しいです。

- いろい<sup>い</sup>ろな場<sup>ば</sup>所にカメムシ<sup>かめむし</sup>がいてと<sup>おほ</sup>ても怖<sup>こわ</sup>かっ<sup>い</sup>たです。行<sup>い</sup>っている塾<sup>じゅく</sup>の壁<sup>かべ</sup>に80匹<sup>ひき</sup>以上<sup>いじょう</sup>いました。カメムシ<sup>かめむし</sup>が寄<sup>よ</sup>り付<sup>つ</sup>か<sup>か</sup>ない対<sup>たい</sup>策<sup>さく</sup>はあり<sup>あ</sup>りますか？

塾<sup>じゅく</sup>の壁<sup>かべ</sup>に80匹<sup>ひき</sup>以上<sup>いじょう</sup>いた<sup>い</sup>た<sup>た</sup>ということ<sup>こと</sup>ですが、集<sup>しゅう</sup>団<sup>だん</sup>で冬<sup>ふゆ</sup>を越<sup>こ</sup>すカメムシ<sup>かめむし</sup>が<sup>い</sup>ること<sup>こと</sup>から、冬<sup>ふゆ</sup>越<sup>こ</sup>しの準<sup>じゅん</sup>備<sup>び</sup>のため集<sup>あつ</sup>ま<sup>ま</sup>っていた感<sup>かん</sup>じが<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>す。

カメムシ<sup>かめむし</sup>が寄<sup>よ</sup>り付<sup>つ</sup>か<sup>か</sup>ない対<sup>たい</sup>策<sup>さく</sup>とし<sup>し</sup>てイ<sup>い</sup>ン<sup>ん</sup>ター<sup>あ</sup>ネ<sup>ー</sup>ツ<sup>と</sup>で「カメムシ<sup>かめむし</sup> 忌<sup>き</sup>避<sup>ひ</sup>剤<sup>ざい</sup>」で検<sup>けん</sup>索<sup>さく</sup>して<sup>し</sup>て<sup>て</sup>くだ<sup>くだ</sup>さい。た<sup>た</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>ん<sup>ん</sup>の薬<sup>やく</sup>品<sup>ひん</sup>が販<sup>はん</sup>売<sup>ばい</sup>さ<sup>さ</sup>れて<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ます。多<sup>おほ</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>カメムシ<sup>かめむし</sup>は怖<sup>こわ</sup>い虫<sup>むし</sup>では<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>せ<sup>せ</sup>ん。捕<sup>つか</sup>ま<sup>ま</sup>え<sup>え</sup>ると臭<sup>くさ</sup>い匂<sup>にお</sup>いが<sup>あ</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>が、私<sup>わたし</sup>は素<sup>す</sup>手<sup>て</sup>で捕<sup>つか</sup>ま<sup>ま</sup>え<sup>え</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ます。慣<sup>な</sup>れ<sup>れ</sup>ると気<sup>き</sup>にな<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>た。

トコジ<sup>と</sup>ラ<sup>ら</sup>ミ<sup>み</sup>やア<sup>あ</sup>メ<sup>め</sup>ン<sup>ん</sup>ボ<sup>ぼ</sup>、タ<sup>た</sup>ガ<sup>が</sup>メ<sup>め</sup>もカメムシ<sup>かめむし</sup>の仲<sup>なか</sup>間<sup>ま</sup>です。カメムシ<sup>かめむし</sup>に<sup>に</sup>つ<sup>つ</sup>いて詳<sup>くわ</sup>しく知<sup>し</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>い<sup>い</sup>方<sup>かた</sup>は『カメムシ<sup>かめむし</sup>博<sup>は</sup>士<sup>し</sup>入<sup>い</sup>門<sup>もん</sup>（出<sup>しゅつ</sup>版<sup>ばん</sup>：全<sup>ぜん</sup>国<sup>こく</sup>農<sup>のう</sup>村<sup>そん</sup>教<sup>きょう</sup>育<sup>いく</sup>協<sup>きょう</sup>会<sup>かい</sup>）』と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う本<sup>ほん</sup>が<sup>た</sup>い<sup>い</sup>へ<sup>へ</sup>ん<sup>ん</sup>さん<sup>さん</sup>こ<sup>こう</sup>う<sup>う</sup>になり<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>ので、興<sup>きょう</sup>味<sup>み</sup>のある<sup>あ</sup>る方<sup>かた</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>ご<sup>ご</sup>覧<sup>らん</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>くだ<sup>くだ</sup>さい。

- 祖<sup>そ</sup>母<sup>ぼ</sup>の<sup>の</sup>家<sup>いえ</sup>の柿<sup>かき</sup>がへ<sup>おほ</sup>こ<sup>み</sup>ん<sup>し</sup>で<sup>し</sup>る<sup>ら</sup>もの<sup>もの</sup>が多<sup>おほ</sup>く見<sup>み</sup>ら<sup>ら</sup>れ、調<sup>しら</sup>べ<sup>べ</sup>て<sup>て</sup>み<sup>み</sup>るとそ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>ぼ<sup>ぼ</sup>み<sup>み</sup>はカメムシ<sup>かめむし</sup>の<sup>の</sup>吸<sup>きゅう</sup>汁<sup>じゅう</sup>に<sup>に</sup>よ<sup>よ</sup>る被<sup>ひ</sup>害<sup>がい</sup>ら<sup>ら</sup>しい<sup>い</sup>とわ<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>た。

柿<sup>かき</sup>を害<sup>がい</sup>するカメムシ<sup>かめむし</sup>は多<sup>おほ</sup>く<sup>く</sup>いて、な<sup>な</sup>か<sup>か</sup>で<sup>で</sup>もク<sup>く</sup>サ<sup>さ</sup>ギ<sup>ぎ</sup>カメムシ<sup>かめむし</sup>（写<sup>しゃ</sup>真<sup>しん</sup>左<sup>さ</sup>）や<sup>や</sup>チャ<sup>ちゃ</sup>バ<sup>ば</sup>ネ<sup>ね</sup>ア<sup>あ</sup>オ<sup>お</sup>カ<sup>か</sup>メ<sup>め</sup>ム<sup>む</sup>シ<sup>し</sup>（写<sup>しゃ</sup>真<sup>しん</sup>右<sup>みぎ</sup>）が有<sup>ゆう</sup>名<sup>めい</sup>です。



クサギカメムシ



チャバネアオカメムシ

●クロメンガタスズメの幼虫は緑色型と褐色型があり、毎年両方いて、なすの葉を食べているのを見ることができました。色の変化は卵からかえる時に決まるのでしょうか？

クロメンガタスズメではありませんが、レタス、トマト、ナスなどの野菜類のほか、花き類など多くの作物を害するオオタバコガを用いた山崎 梓博士の研究の要約がインターネットにありましたので少し難しいのですが一部紹介します。クロメンガタスズメの幼虫も同じことが言えそうです。

『オオタバコガの幼虫は体色に様々なパターンが存在し、特に終齢期において緑色から褐色、黒色まで非常に顕著な色彩多型がみられます。利用する寄主植物の部位によって体色発現頻度が異なり、特に葉を摂食すると緑色を高い頻度で発現する傾向がみられました。また緑色幼虫の体液中には餌由来のカロチノイド色素が多く存在していることから、餌が体色発現に影響を与えていることが示唆されました。

体色決定に影響を与える可能性のある他の環境要因についても検証を行いました。まず、様々な温度条件下で飼育を行った結果、高温条件下ほど体色の明度が上がり、逆に低温下では体色の黒化が見られました。また、秋季の野外において幼虫体温を測定した結果、褐色幼虫の方が周辺気温に対する体内温度が相対的に高い傾向がありました。このことから、気温の低い環境条件下では褐色幼虫の方が体温上昇において有利であると考えられました。緑色幼虫は高い隠蔽度から視覚を利用する捕食者から回避することが考えられました。

その他にも背景色が体色発現に与える影響を検証したが、背景の色そのものではなく明度が関係しているとも考えられる結果となりました。』

●セミ、蚊の発生タイミングが狂っていたように感じます。

●ナガサキアゲハやくロメンガタスズメ、ツマグロヒョウモンなどが増えたように感じます。

おそ おんだんか ぶん おも おんだんか ぶん むし  
恐らく温暖化により増えているものと思います。ほかにも温暖化で増えている虫がたくさんいます。特に足利市は栃木県のなかでも暖かい場所ですので、真っ先に侵入します。これからも関心を持って観察してみてくださいと嬉しいです。

●アキアカネ、ツバメなどは増えましたが、ヒグラシやハグロトンボなどは減っていたように感じます。

●アブラゼミは今年、昨年よりは増えた印象でしたが、逆にニイニイゼミは少なかったかと思いました。

とし ちが つづ かんしん も かんさつ  
年によって違うかもしれませんので、続けて関心を持って観察してみてくださいをお勧めいたします。確かにニイニイゼミは少ない印象がありました。

●チョウ類を見つけるのが難しかったです。

●チョウやトンボ等の種類が分かりづらいです。

じかん きせつ かんきょう であ こと すかん  
時間や季節、環境によって出会えるチョウは異なりますので、図鑑やインターネットで調べて探してみると、見つけた時の喜びは大きいと思います。織姫山のような身近なところでもきれいなチョウに出会えると思います。

また、種類を覚えるには身近なものからまず覚えてみてはいかがでしょうか。チョウの場合、本市で知られるチョウは約90種ですが、身近にみられるものは、20~30種ほどですので、まずここから覚えてみてはいかがでしょうか。新書版程度のハンドブックもありますので、自分に合ったものを見つけてトライしてはいかがでしょうか。インターネットにも見分け方がたくさん出ています。

●フラワーパーク内のフジバカマに来るアサギマダラの数がここ1~2年すごく減っているように思います。

とし かす そうげん ひ つづ かんしん も うれ  
年によって数の増減はありそうですので引き続き関心を持っていただくと嬉しいです。

●<sup>いま</sup>まで<sup>き</sup>聞いたことのない<sup>こえ</sup>ミンミンゼミ<sup>き</sup>の声を聞きました。

ミンミンゼミの<sup>こえ</sup>声<sup>き</sup>が<sup>よ</sup>聞いて良かったですね。ミンミンゼミは<sup>たか</sup>高い<sup>き</sup>木<sup>は</sup>が<sup>は</sup>発達<sup>した</sup>樹林<sup>を</sup>を好<sup>む</sup>傾向<sup>が</sup>あり、<sup>けいこう</sup>市街地<sup>より</sup>も<sup>やま</sup>山<sup>よ</sup>りで<sup>き</sup>良く聞<sup>く</sup>ことができます。

●<sup>か</sup>蚊<sup>が</sup>を10月<sup>み</sup>になっても見<sup>か</sup>けました。

<sup>もうしょ</sup>猛暑<sup>の</sup>時は<sup>か</sup>蚊<sup>が</sup>が<sup>すく</sup>少なく、この<sup>きかん</sup>期間<sup>は</sup>活動<sup>に</sup>適<sup>した</sup>温度<sup>で</sup>ではありません。ニュース<sup>や</sup>ワイドショー<sup>でも</sup>も<sup>もうしょ</sup>猛暑<sup>で</sup>蚊<sup>が</sup>が<sup>すく</sup>少ないと<sup>ほうどう</sup>報道<sup>され</sup>ていました。10月<sup>が</sup>頃<sup>に</sup>になると<sup>かつどう</sup>活動<sup>に</sup>適<sup>した</sup>温度<sup>と</sup>なり見<sup>か</sup>ける<sup>機会</sup>が多<sup>く</sup>な<sup>った</sup>もの<sup>と</sup>思<sup>い</sup>ます。11月<sup>でも</sup>も蚊<sup>に</sup>刺<sup>さ</sup>れた<sup>人</sup>は<sup>ひと</sup>多<sup>い</sup>よう<sup>で</sup>す。

●<sup>あつ</sup>暑<sup>さ</sup>のせい<sup>か</sup>、<sup>れいねんたいぐん</sup>例年<sup>大</sup>群<sup>で</sup>見る<sup>アキアカネ</sup>アキアカネ<sup>を</sup>を<sup>ほとん</sup>ど見<sup>か</sup>けられ<sup>ませ</sup>んでした。

●<sup>あか</sup>赤<sup>トンボ</sup>の<sup>かず</sup>数<sup>が</sup>が<sup>すく</sup>少<sup>な</sup>か<sup>った</sup>よう<sup>に</sup>思<sup>い</sup>ました。

<sup>あか</sup>赤<sup>トンボ</sup>は<sup>ねんねんげんしょう</sup>年々<sup>減</sup>少<sup>して</sup>いるよう<sup>で</sup>す。この<sup>なかま</sup>仲間<sup>は</sup>国<sup>や</sup>県<sup>の</sup>絶滅<sup>危</sup>惧<sup>種</sup>にな<sup>って</sup>いる<sup>もの</sup>が多<sup>い</sup>です。いつ<sup>ま</sup>でも<sup>あか</sup>赤<sup>トンボ</sup>が<sup>い</sup>生<sup>き</sup>て<sup>い</sup>ける<sup>環</sup>境<sup>が</sup>残<sup>る</sup>こと<sup>を</sup>願<sup>っ</sup>て<sup>い</sup>ます。

●<sup>ことし</sup>今年<sup>は</sup>猛暑<sup>で</sup>昆<sup>虫</sup>の<sup>はっせい</sup>発生<sup>が</sup>が<sup>あ</sup>まり<sup>な</sup>か<sup>った</sup>よう<sup>に</sup>思<sup>い</sup>ます。

<sup>はんば</sup>半端<sup>で</sup>は<sup>な</sup>い<sup>もうしょ</sup>猛暑<sup>で</sup>した。虫<sup>に</sup>影<sup>響</sup>を<sup>あ</sup>与<sup>え</sup>た<sup>こと</sup>は<sup>たし</sup>確<sup>か</sup>だ<sup>と</sup>思<sup>い</sup>ます。<sup>わたらせゆう</sup>渡良瀬遊<sup>水</sup>地<sup>で</sup>夜<sup>間</sup>明<sup>かり</sup>を<sup>つ</sup>つ<sup>け</sup>て<sup>ちようさ</sup>調<sup>査</sup>（<sup>ら</sup>イト<sup>トラ</sup>ップ）<sup>した</sup>結<sup>果</sup>だ<sup>と</sup>明<sup>ら</sup>か<sup>に</sup>猛暑<sup>の</sup>影<sup>響</sup>が<sup>き</sup>感<sup>じ</sup>ら<sup>れ</sup>ま<sup>し</sup>た。

●<sup>ことし</sup>今年<sup>は</sup>アサギマダラ<sup>を</sup>を<sup>み</sup>見<sup>る</sup>こと<sup>が</sup>が<sup>な</sup>く<sup>ざんねん</sup>残<sup>念</sup>で<sup>し</sup>た。

<sup>しん</sup>新<sup>・</sup>珍<sup>発</sup>見<sup>報</sup>告<sup>で</sup>は<sup>はっけんほうこく</sup>発<sup>見</sup>報<sup>告</sup>が<sup>い</sup>く<sup>つ</sup>か<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。<sup>うつく</sup>美<sup>しく</sup>優<sup>雅</sup>に<sup>ま</sup>舞<sup>う</sup>姿<sup>に</sup>は<sup>すがた</sup>感<sup>激</sup>し<sup>ま</sup>す。来<sup>年</sup>は<sup>み</sup>見<sup>ら</sup>れ<sup>る</sup>と<sup>よ</sup>良<sup>い</sup>で<sup>す</sup>ね。

- 夏に頭上の手の届かないところを大量のタマムシが飛び回っていて、見たことがない光景でした。

タマムシ成虫は盛夏の日差しの強い日中のみ活発に活動し、エノキ・ケヤキ等の広葉樹の梢の上を飛翔しているものがしばしば観察されています。また輝いて目立つことから鳥に襲われそうですが、CDが鳥よけに使われるように鳥はタマムシを嫌うことがわかっているそうです。しかし、なかなか見ることができない光景に出会ったのは幸運だと思います。

- 虫の世界は不思議がいっぱいで楽しいです。

おっしゃる通り、本当に虫の世界は不思議がいっぱいです。私も同じ思いですが、年々少なくなっているのが残念でなりません。

- ナガコガネグモ、ジョロウグモ、ハエトリグモ等を今年も発見しました。

- 軒下に巣を構えるオニグモの生態を夏から今に至るまで気にかけて見ていますが、日中は巣にはいないのに夜になるとどこからともなく現れて、巣を補修しつつ、待ち伏せて巣の中央に陣取っています。毎晩通ってくる様を見てみると、カオジロガビチョウに捕食されずに良かったと都度思っています。

- 今年シロカネイソウロウグモには会えませんでした。ゴミグモやアリグモは会えました。

- 春先の蚊柱のようにまとまって小さな昆虫が多く飛び交っているのをよく見たらアブラムシでした。植物の茎や葉にびっしり密着している姿ばかりを見てきたので、飛ぶ虫だということを忘れていましたが、見方を変えて観察してみると意外な発見があり更に好奇心が沸いて来ます。

## <水辺の生き物>

- 数年前にはよく見られたアメンボ、どじょう、ザリガニの数が減っているように思います。
- 夏が暑かったからかカエルがあまり見られなかったです。
- 昔に比べ、カエルやヘビが激減しているように感じる。(イノシシの影響でしょうか?)
- トウキョウダルマガエルは今年も発見できずに終わりました。
- スジエビは小さなものしか見つからず、タニシは減り、ドジョウもあまり見られなくなりました。

夏の暑さや、雨の降り方の変化など、水辺の生き物にとってますます生存に困難な状況になってきているように思います。冬でも気温の高い状況の日が出てきており、わが家で保護して育てているミシシippアカミミガメは、12月中旬を過ぎてても動き回っている日が多くなりました。冬眠できずに困っているようです。また、裏の水田がなくなり、今年も庭のヌマガエルがほとんど見られなくなりました。多くの生き物が、生息場所が限られたり、生息数が減少したりしているようです。結果として他の生物に集中的に食べられてしまうなどの悪循環が始まっているように思われます。現在、それぞれの生物が持っている生存力のおかげで何とか持ちこたえているものの、いったんバランスが崩れてしまうと、急激に影響が出てしまう恐れがあるといえます。

今後も引き続き観察を継続し、変化を見逃さないようにしていくことが、ますます大切になってきていると思います。今後ともよろしくお願いします。

- 相変わらずヌマガエルが圧倒的に多く発生しています。
- アマガエルは数回遭遇でき嬉しく思いました。
- メダカやカワニナ、アメリカザリガニは見受けられました。

- タガメを探そうと市内の田んぼや用水路を複数箇所回ってみましたが見つけることはできなかったので、来年こそは発見報告をしたいです。

タガメは、私も県外（茨城県、学生時代；35年前）でしか発見したことはありません。足利市内で発見できると大発見だと思います。頑張ってください。

- ナマズが「はたき」（釣り人と言う魚類の産卵の俗語）に夢中で、傘を開いて水中に入れて途中まですくい上げられるまで気が付かないことに動物の本能を垣間見た気がしました。

産卵期の魚類は、捕獲するための絶好のチャンスですね。私も子供の頃、コイやオイカワなどを産卵期に大量に捕まえた思い出があります。

- マシジミの棲息する水路についても、今年は久しぶりに調査しましたが、時期が遅かった影響もあるとは思いますが、マシジミの生きた個体を探すのに若干難儀しました。

#### <外来生物など>

- クビアカツヤカミキリの被害が大きく、桜の木が枯れていたり、枝を切られたりして痛々しいです。

- 桜の木が枯れていくのが残念です。

#### <その他の生き物>

- 大岩の山にシカが増えているように思います。（毎晩鳴き声がする）

- 川沿いでは、20cmくらいの浅い穴の真ん中に種が大量に入った大きなフンが点々とありましたが、クマでしょうか。

- 蛇に会えたのは何年かぶりです。ほっとしたような気持ちになりました。

## ＜気候・自然環境の変化など＞

- 水田がなくなり、耕作者がいなくなり農業用水の水も不安定となり、棲みついた生き物も干上がってしまい姿を消してしまいました。
- 耕作放棄地が増えて、水田が減り、水中生物の減少が心配されます。
- 水辺に生物が多いが、小川や下水道（暗渠を含め）にごみ、特にプラスチックが目につき、生物が誤飲しないのかと心が痛みます。
- 猛暑日がとても多く、そのころは蚊もあまり見かけませんでした。
- 初冬に入ろうという時期とは到底思えない夏日もあり「スーパーエルニーニョ」と言われる現象と見聞きするにつけ環境に目を向ける習慣が付いて以来、年々早いペースで変化が起こっていると肌で感じます。
- 野鳥の勘違い＝植物の徒花＝人の体調不良（飛躍しすぎですが）地上の生物の異常が多重に発生しているように思えます。自分の周囲の小さなエリアからも分かることになってしまっているのは脅威でもありますが何か一つでも環境保護に通じることを手の届く所から始めていこうと思いました。

## ＜全体的な感想＞

- 環境がとても大切と感じています。
- 家の周辺に気づかない生き物がたくさんあると楽しめました。
- 今年はいろいろな生物が少なかったように思いました。
- 年をとり、行動半径もせまく、近所の数メッシュしか調査できませんでしたが、日々、自宅の庭だけでも花や昆虫、カエル等多種の生き物が見られ、楽しみにしています。

- 小学生だった近所の子供達も中学生や高校生になり、忙しく調査から離れて行ってしまうのは残念です。
- 暑さのせいかな今年は大いぶ怠けてしまったようです。メモするのを忘れてしまったこともありました。
- 調査中に不審者と間違われないように環境レポーターであることを示す腕章のようなものが欲しい。
- 今年は暑くてあまり外に出られなかった。
- レポーターに加えていただき2年目でした。我ながら要領がつかめてきたと感じています。
- 植物は不得意(どちらかと言えば嫌い)な分野でレポートもままならない内容と反省しています。

なまえ  
**名前がわからない**  
いのもの  
**生き物を**  
み  
**見つけたら**



市環境政策課にご質問をお寄せください！  
検討委員の先生方に鑑定していただき、  
回答します。  
あなたの質問が貴重な発見につながるかも？

つぎ  
次のことに気を付けて  
よく観察してください。

- ①いつ      ②どこで  
おお      いろ  
③大きさ    ④色  
な      ごえ      と      かた  
⑤鳴き声、飛び方などの  
とくちょう  
特徴

市環境政策課にメール・手紙・電話等で  
これらの情報とともに  
ご質問をお寄せください。  
(連絡先は裏表紙の裏側をご確認ください。)



写真があると  
より鑑定しやすいので  
可能な場合は撮影し、  
写真も一緒にお送りください。

※お寄せいただいた写真は、報告書の表紙等に掲載させていただく場合がございますので、ご了承ください。